

「剣道指導要領」をお使いの皆様へ
～初版6刷（平成25年6月1日）以降の修正箇所について～

剣道指導要領の初版6刷以降に修正された箇所を下記に列挙いたします。

本紙の後に更新されたページ（最新版）のPDFも掲載いたしますので、旧書籍をお持ちの方は併せてご活用ください。

記

修正箇所 一覧

*下線は文言の追記

【P24】

2. 竹刀の基準

- ・ (1)、(2)の表を「ちくとう最小直径」を追加した最新の表に更新した。

【P25】

3. 竹刀の規格

- ・ (1)の“(財)”を削除した。
- ・ (2)竹刀の構造は四つ割りのものとし、中に異物（先革内部の芯、柄頭のちぎり以外のもの）を入れてはならない。ピース（四つ割りの竹）の合わせに大きな隙間のあるものや安全性を著しく損なう加工、形状変更をしたものを使用してはならない。
- ・ (3)長さは付属品を含む全長であり、重さはつば（鐙）を含まない。太さは先革先端部最小直径（対辺直径）およびちくとう部直径（竹刀先端より8.0cmのちくとう対角最小直径）とする。また、竹刀は先端部をちくとうの最も細い部分とし、先端から物打に向かってちくとうが太くなるものとする。

4. 竹刀の先革先端部直径値とちくとう最小直径値の計測方法ならびに先革・先芯

- ・ 竹刀の先革先端部最小直径値とちくとう最小直径値の計測方法は図のとおりである。
- ・ 図をちくとうの最小直径値の計測方法を追加した最新の図に更新した。
- ・ <ちくとうの最小直径値の計測方法>の“の”を削除した。

*7刷のみの修正

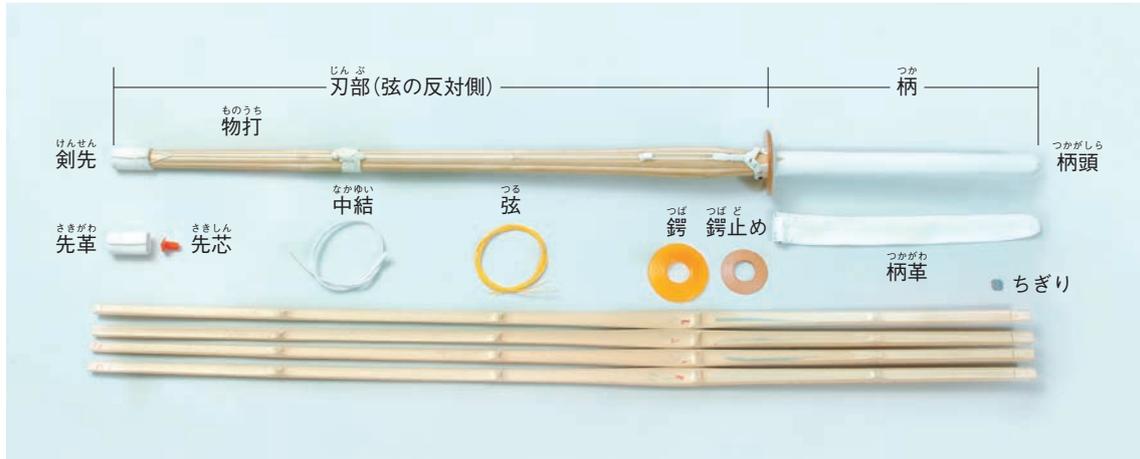
- ・ (1)の50ミリメートルを5センチメートルに修正した。

以上

第7節 竹 刀

剣道は日本刀を使って相手と戦う技術が起源であり、木刀による形稽古の時代を経て、現代剣道の竹刀による稽古や試合に移行した。

1. 竹刀の構造と各部の名称



2. 竹刀の基準

(1) 一刀の場合

	対象	中学生	高校生 (相当年齢の者も含む)	大学生・一般
長さ	男女共通	114センチメートル以下	117センチメートル以下	120センチメートル以下
重さ	男性	440グラム以上	480グラム以上	510グラム以上
	女性	400グラム以上	420グラム以上	440グラム以上
太さ	男性	先端部最小直径	25ミリメートル以上	26ミリメートル以上
		ちくとう最小直径	20ミリメートル以上	21ミリメートル以上
	女性	先端部最小直径	24ミリメートル以上	25ミリメートル以上
		ちくとう最小直径	19ミリメートル以上	20ミリメートル以上

幼少年にあっては、試合規則に示された基準にとらわれず、各人の身体的な発育・発達状態に合った長さや重さの竹刀を使用することが望ましい。

(2) 二刀の場合

	対象		大学生・一般	
			大刀	小刀
長さ	男女共通		114センチメートル以下	62センチメートル以下
重さ	男性		440グラム以上	280～300グラム
	女性		400グラム以上	250～280グラム
太さ	男性	先端部最小直径	25ミリメートル以上	24ミリメートル以上
		ちくとう最小直径	20ミリメートル以上	19ミリメートル以上
	女性	先端部最小直径	24ミリメートル以上	24ミリメートル以上
		ちくとう最小直径	19ミリメートル以上	19ミリメートル以上

3. 竹刀の規格

- (1) 竹刀は、竹または全日本剣道連盟が認めた竹に代わる化学製品のものとする。
- (2) 竹刀の構造は四つ割りのものとし、中に異物（先革内部の芯、柄頭のちぎり以外のもの）を入れてはならない。ピース（四つ割りの竹）の合わせに大きな隙間のあるものや安全性を著しく損なう加工、形状変更をしたものを使用してはならない。
- (3) 長さは付属品を含む全長であり、重さはつば（鏝）を含まない。太さは先革先端部最小直径（対辺直径）およびちくとう部直径（竹刀先端より8.0センチメートルのちくとう対角最小直径）とする。また、竹刀は先端部をちくとうの最も細い部分とし、先端から物打に向かってちくとうが太くなるものとする。
- (4) つば（鏝）は、皮革または化学製品の円形のものとする。その大きさは直径9センチメートル以下とし、竹刀に固定する。

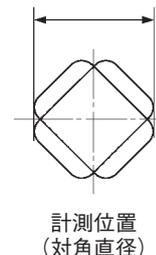
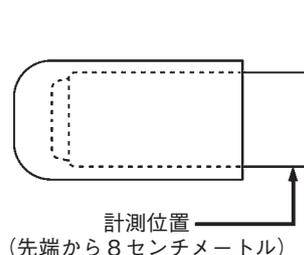
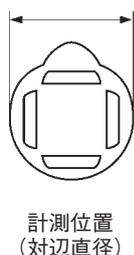
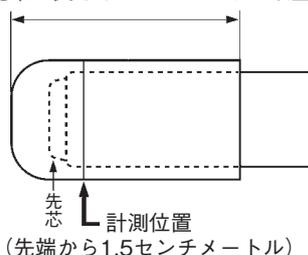
4. 竹刀の先革先端部最小直径値とちくとう最小直径値の計測方法ならびに先革・先芯

竹刀の先革先端部最小直径値とちくとう最小直径値の計測方法は図のとおりである。

〈竹刀の先革長、先端部最小直径値の計測方法〉

〈ちくとう最小直径値の計測方法〉

先革の長さ5センチメートル以上



- (1) 先革の長さは、外寸で最低5センチメートル以上とする。

- (2) 竹刀先端の太さと先革が適合していないものは、竹刀先端が先革から抜けやすいのでたいへん危険である。
- (3) 先芯は、柔らかすぎるゴムではなく、ある程度の硬さがあって、芯の中が空洞でないものを使用することが望ましい。

5. 竹刀の安全確認

常に竹刀を点検する。特に稽古前には必ず点検し、安全を確認してから使用する。竹刀の破損や不備な竹刀の使用などから、大きな事故が発生する可能性もあるので、次のような竹刀は絶対に使用してはならない。

- (1) 竹が折れたり、ささくれのある竹刀
- (2) 竹に虫食いやキズのある竹刀
- (3) 表面に黒いカーボンが露出したり、ひび割れがあるカーボン竹刀
- (4) 先革の破れた竹刀
- (5) 中結が緩んだり切れている竹刀
- (6) 中結が剣先より全長の約1/4の位置に固定していない竹刀
- (7) 弦が緩んでいる竹刀
- (8) ちぎり（竹刀の握りの部分にある鉄片）が不完全な竹刀
- (9) 各種テープなどで補修した竹刀
- (10) 先芯、ちぎり以外の異物を挿入した竹刀
- (11) 先芯が不完全な竹刀（カーボン竹刀は、専用の先芯を使用すること）
- (12) 鏝を固定していない竹刀